

## 利尻島・礼文島のゾウムシ類

堀 繁久

〒 004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道開拓記念館

### Weevil Fauna of Rishiri and Rebun Islands

Shigehisa Hori

Historical Museum of Hokkaido, Konopporo 53-2 Atsubetsu-Ku, Sapporo 004-0006 Japan

e-mail : horis@hokkaido-ies.go.jp

**Abstract:** In this survey in Rishiri island, nine species –*Deporaus* (*Deporaus*) *affectatus*, *Trachyrhinus* sp., *Meotiorhynchus querendus*, *Hypera* sp., *Thalasselaphus* sp., *Notaris acridulus* (new record in Japan), *Dyscerus orientalis*, *Lepyryus quadrinotatus* and *Protacallinus* sp. – were newly recorded. Consequently, the total number of record species in the island has become 26. In Rebun island six species –*Meotiorhynchus querendus*, *Pseudocneorhinus setosus*, *Isochnus sorbi*, *Hylobitelus haroldi*, *Dryophthorus konishii* and *Xenomimetes* sp. – were placed on record. In consequence, the number of recorded Weevil species has reached to 30.

#### はじめに

利尻島の昆虫に関しては、1965年に実施した東京農業大学第一高等学校の利尻島動植物調査により422種の昆虫が記録されているが、その中でゾウムシ類はオトシブミ科のドロハマキチョッキリ1種のみが記録されている(酒井他, 1968)。その後、ミヤマアナキゾウムシ、ハナウドゾウムシ、コブヒゲボソゾウムシ(早稲田大学生物同好会, 1980)。ミヤマヒゲボソゾウムシ, *Byrsopages* sp., ニレノミゾウムシ, クロアナキゾウムシ(楠井, 1987)。コナライクビチョッキリ, ナラルリオトシブミ, *Phyllobius* sp., マルカククチゾウムシ, ウスアオオビゾウムシ, キソヤマゾウムシ, *Hypera* sp., リンゴノミゾウムシ, チビマツアナキゾウムシ, その他に属不明の3種が記録された(保田他, 1991)。文献記録では、利尻島より属不明の3種を除き17種のゾウムシ類が記録されている。

礼文島のゾウムシ類に関しては、楠井(1987)がドロハマキチョッキリ, エゾイクビチョッキリ, オオコブオトシブミ, オトシブミ, ルリオトシブミ, ミヤマヒゲボソゾウムシ, ハイロヒョウタンゾウムシ, ハナウドゾウムシ, *Scepticus* sp., ギシギシタコゾウムシ, *Byrsopages* sp., オオゴボウゾウムシ, リンゴノミゾウムシ, タマゴゾウムシ, クロアナキゾウムシを記録した。その後、コブヒゲボソゾウムシ, *Pseudocneorhinus* sp. キソヤマゾウムシ, リンゴノミゾウムシ, *Hylobitelus* sp., タマゴゾウムシ, クロコブゾウムシ, マツコブキクイゾウムシ, ササコクゾウムシ?その他に属不明の4種が記録されている(保田・佐藤, 1992)。文献記録では、礼文島より属不明種の4種を除き、24種のゾウムシ類が記録されている。

筆者は、2001年の夏に利尻島及び礼文島で主にPT(ピットフォールトラップ)による地表性甲虫

の調査を実施した。その時に、得られたゾウムシ類について記録する。

本報告をまとめるにあたり、和歌山県立自然史博物館の的場績学芸員に同定及び種々ご教示いただいた。感謝申し上げる。なお、本調査における「国立公園特別保護地区内」での調査に関しては、環境省（平成13年6月18日付 環西道許514号）の許可を受けて実施したものである。本調査をご支援いただいた北海道大学総合博物館館長の諏訪正明教授と北海道大学農学部昆虫体系学教室の丸山宗利氏ならびに文献の入手でお世話になった層雲峡ビジターセンター長の保田信紀氏にお礼申し上げる。

#### ◆ 利尻島・礼文島から確認されたゾウムシ類 ◆

- ・PT：Pitfall Trap 以外は全て見つけ採り等の一般採集。
- ・和名の後ろの\*印は島からの新記録種を示す。
- ・採集者は全て筆者であるため省略した。

#### ● Attelabidae オトシブミ科

##### ドロハマキチョッキリ

*Byctiscus puberulus puberulus* (Motschulsky, 1860)

1ex. 17.VII.2001 Rishiri Is. Mt.Santyosan (alt. 1500m) Kutsugata

##### エゾイクピチョッキリ\* (Fig. 1)

*Deporaus (Deporaus) affectatus* Faust, 1889

1♂ . 17.VII.2001 Rishiri Is. Kutsugata Mt.Santyosan(alt.1500m)

#### ● Curculionidae ゾウムシ科

##### コブヒゲボソゾウムシ

*Phyllobius (Nipponophyllobius) picipes* Motschulsky, 1860

1♂ . 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebun Is. Shiretoko

##### ミヤマヒゲボソゾウムシ

*Phyllobius (Odontophyllobius) annectens* Sharp, 1896

1♂・1♀ . 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is. Oniwaki Yamunai-zawa

1♂・2♀ . 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebun Is. Shiretoko

##### チビツチゾウムシの一種\*

*Trachyrhinus* sp.

1ex. 17-31.VII.2001 (PT) Rishiri Is. Mt. Rishiridake (alt.1700m)

体長4.6mm前後(吻を含まない)。保田他(1991)がゾウムシ科の属不明種として記録したものと同一可能性がある。本属については、北海道産は本州以西産とは形態を異にし、一見別属のような印象である。特に利尻島産の個体は、北海道内陸産とも少し形態を異にしており、体型はより細長く、上翅基部のくびれも強くなっている。検視個体は1頭のため、今後より多くの個体を得てから、比較する必要がある。

##### マルカククチゾウムシ

*Blosyrus japonicus* Sharp, 1896

1exs. 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is. Oniwaki Yamunai-zawa

##### ハナウドゾウムシ

*Catapionus virdimetallicus* (Motschulsky, 1860)

1♂・1♀ . 17.VII.2001 Rishiri Is. Kutsugata Mt.Santyosan(alt.1200m)

1♂ . 31.VII.2001 Rishiri Is. Kutsugata Mt.Santyosan(alt.1200m)

1♀ . 31.VII.2001 Rishiri Is. Kutsugata Mt.Santyosan(alt.840m)

1♀ . 18.VII.2001 Rebun Is. Funadomari Eria Pass

利尻島の高山帯に生息する本種は小型で緑色の強い美しい個体が多い。他の低山部で得られる個体はやや大型で暗灰色を呈する個体が多い。



Figs. 1-6. 利尻島で確認されたゾウムシ類 - 1. *Deporaus (Deporaus) affectatus* Faust, 1889 エゾイクビチョッキリ; 2. *Meotiorhynchus querendus* Sharp, 1896 シラフヒョウタンゾウムシ; 3. *Pseudocneorhinus setosus* Roelofs, 1879 ケナガスグリゾウムシ; 4. *Hypera* sp. タコゾウムシの一種; 5. *Thalasselaphas* sp. ツヤハマベゾウムシの一種; 6. *Notaris acridulus* Germar サイハテナゾウムシ; 7. *Isochnus sorbi* Morimoto, 1984 ナナカマドノミゾウムシ; 8. *Lepyrus quadrinotatus* Boheman, 1842 ヨツホシアナアキゾウムシ; 9. *Protacallinus* sp. クチカクシゾウムシの一種

## シラフヒョウタンゾウムシ\* (Fig. 2)

*Meotiorhynchus querendus* Sharp, 1896

- 1 ♂・4 ♀ . 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is.  
Oniwaki Yamunai-zawa
- 4 ♀ . 1.VIII.2001 Rebus Is. Funadomari  
Oosona
- 3 ♀ . 18.VII.2001 Rebus Is. Funadomari Eria  
Pass

海浜草原を主な生息地とする海浜性のゾウムシであるが、礼文島大備では本来の生息地である海岸の砂地で得られたが、他の二箇所は若干生息環境が違っている。礼文島エリア峠は道路脇の側溝からで、利尻島鬼脇では河川上流部の川砂に設置したPTにより得られた。ともに海岸線からやや離れた内陸部の地域から確認された。道内の海岸線で得られる個体に比べやや暗色の強い個体が多い。

## ケナガスグリゾウムシ\* (Fig. 3)

*Pseudocneorhinus setosus* Roelofs, 1879

- 1ex. 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebus Is. Shiretoko

## ヤマゾウムシの一種

*Byrsopages* sp.

- 1 ♂ . 17.VII.2001 Rishiri Is. Kutsugata  
Mt.Santoyosan(alt.1500m)
- 3 ♂・2 ♀ . 17-31.VII.2001 (PT) Rishiri Is. Mt.  
Rishiridake (alt.1700m)
- 1 ♂・1 ♀ . 31.VII.2001 Rishiri Is. Mt. Rishiri-  
dake (alt.1700m)
- 5 ♀ . 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is. Oniwaki  
Yamunai-zawa
- 1 ♀ . 18.VII.2001 Rebus Is. Funadomari Eria  
Pass

過去の本属の利尻島からの記録は、楠井(1987)では、*Byrsopages* sp. (*Byrsopages villosus* Boheman ラウスヤマゾウムシだと思われるが♀のため種名を保留と注記あり)として記録。保田他(1991)は、*Byrsopages kiso* Nakane キソヤマゾウムシを記録している。今回の調査で得られた個体は、利尻島の1500 m以上の高山帯の個体は皆小型で♂では

非常に細い体型をしており、利尻島の低山部と礼文島で得られた個体では大型で太い体型をしており、複数種混じっている可能性もあるが、現段階では種名の確定まで至っていない。低地の個体には背面に広く斑状の白色毛を散布する個体も現れる。北海道本島を含め各地で変異があり、今後の研究が待たれるグループである。

## タコゾウムシの一種 (Fig. 4)

*Hypera* sp.

- 1ex. 17-31.VII.2001 (PT) Rishiri Is. Mt.  
Rishiridake (alt.1700m)

体長6.5 mm (吻を含まない)。やや大型のタコゾウムシで、体表にはわずかだが緑灰色の光沢をもち美しい。保田他(1991)のピットフォールトラップ調査により山頂付近で得られている *Hypera* sp. と同一種と考えられる。上翅会合部後半部に明赤褐色部を持つ。 *Hypera* 属はユーラシア～ヨーロッパにかけて多数の種が記載されている。

## ツヤハマベゾウムシの一種\* (Fig. 5)

*Thalasselaphas* sp.

- 5exs. 17-31.VII.2001 (PT) Rishiri Is. Mt.  
Rishiridake (alt.1700m)

体長4.3 mm (吻を含まない)。国内には、*Thalasselaphas* 属のゾウムシは、北日本の海岸を中心にクロツヤハマベゾウムシ、ツヤハマベゾウムシ、コツヤハマベゾウムシの3種が分布している(森本, 1993; 堀, 1994)。国内に知られる既知種は全て海浜性で、浜辺に打ちあがったアマモ類を宿主としている。利尻岳で見つかった本種は全く違う生態をしていると推定され、勿論別な植物を宿主としているのであろう。体全体黒色で、強い光沢を持つ。ユーラシア大陸には、やはり山地に生息する本属の種が知られているようなので、近い将来種名が判明することが期待される。

## サイハティネゾウモドキ (和名新称)\* (Fig. 6)

*Notaris acridulus* (Linnaeus. 1758)

- 1 ♂・1 ♀ . 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is.

## Oniwaki Yamunai-zawa

体長 4.5 mm (吻を含まない). 日本初記録となる種である. *Notaris* 属は国内では北日本を中心に繁栄しており, クロイネゾウモドキ, キボシイネゾウモドキの 2 種が知られていたが, 国内 3 種目の *Notaris* である. 谷底の雑草地の PT により得られた. 日本のほぼ北端に位置する利尻島から得られたので, サイハテイネゾウモドキという和名を与えた.

## ナナカマドノミゾウムシ\* (Fig. 7)

*Isochnus sorbi* Morimoto, 1984

1ex. 18.VII.2001 Rebuton Is. Funadomari Kusyuko

## タマゴゾウムシ\*

*Dyscerus orientalis* (Motschulsky, 1866)

1 ♂・1 ♀ . 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is. Oniwaki Yamunai-zawa

## クロアナアキゾウムシ

*Hylobitelus gebleri* (Boheman, 1834)

2 ♂・3 ♀ . 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is. Oniwaki Yamunai-zawa  
1 ♂・1 ♀ . 17-31.VII.2001 (PT) Rishiri Is. Mt. Rishiridake (alt.1700m)

## マツアナアキゾウムシ\*

*Hylobitelus haroldi* (Faust, 1873)

4exs. 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebuton Is. Kafukai  
1ex. 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebuton Is. Shiretoko

## ヨツホシアナアキゾウムシ\* (Fig. 8)

*Lepyryus quadrinotatus* Boheman, 1842

1ex. 17-31.VII.2001 (PT) Rishiri Is. Mt. Rishiridake (alt.1700m)

北海道本島では, やや標高の高い場所のヤナギ類に付くことが知られている (堀・佐々木, 1993). 利尻岳山頂部の高山雪潤草原に設置した PT で得られた.

## クロコブゾウムシ

*Niphades variegatus* (Roelofs, 1873)

1 ♀ . 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebuton Is. Shiretoko

## クチカクシゾウムシの一種\* (Fig. 9)

*Protacallinus* sp.

2exs. 17.VII.2001 Rishiri Is. Kutsugata Mt. Rishiridake (alt.1500m)

4exs. 16.VII-1.VIII.2001 (PT) Rishiri Is. Oniwaki Yamunai-zawa

体長 3.7 mm 前後 (吻を含まない). 全身暗赤褐色で, 翅端部を除き奇数間室が隆起している. 保田他 (1991) がゾウムシ科の属不明種として記録したのと同じ可能性がある. 利尻島の谷底の PT 及び亜高山帯の落葉下から得られた.

## キクイゾウムシの一種

*Xenomimetes* sp.

3exs. 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebuton Is. Shiretoko

## ● Rhynchophoridae オサゾウムシ科

## アトボソキクイサビゾウムシ\*

*Dryophthorus konishii* Morimoto, 1985

1ex. 18.VII-1.VIII.2001 (PT) Rebuton Is. Shiretoko

## まとめ

今回の調査で, 利尻島から新たに日本初記録の *Notaris acridulus* (Linnaeus) (サイハテイネゾウモドキ) を含め, エゾイクピチョッキリ, *Trachyrhinus* sp. (チビツチゾウムシの一種), シラフヒョウタンゾウムシ, *Hypera* sp. (タコゾウムシの一種), *Thalasselaphas* sp. (ツヤハマバゾウムシの一種), タマゴゾウムシ, ヨツホシアナアキゾウムシ, *Protacallinus* sp. (クチカクシゾウムシの一種) の 9 種が確認され, 同島からのゾウムシ類の記録は 26 種となった.

礼文島からは, ケナガスグリゾウムシ, シラフヒョウタンゾウムシ, ナナカマドノミゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, アトボソキクイサビゾウムシ,

*Xenomimetes* sp. (キクイゾウムシの一種) の6種の分布が新たに確認され、同島からのゾウムシ類の記録種は30種となった。

夏に1度のPTによる調査を実施しただけで、日本未記録種その他、島から記録の無い種やまだ種名が確定されない不明種などが記録される利尻島の昆虫相はまだ未解明の部分が残っており、今後の解明が期待される地域である。今後、さらにゾウムシ類の記録が蓄積されて島の甲虫相が解明されることを期待したい。

#### 引用文献

- 堀 繁久, 1994. 石狩湾における海浜性ゾウムシ類の記録. *jezoensis*, (21): 57-58.
- 堀 繁久・佐々木邦彦, 1993. ヨツホシアナアキゾウムシの北海道西部の記録. *jezoensis*, (20): 197.
- 楠井善久, 1987. 稚内周辺と利尻・礼文島のゾウムシ採集記録. *jezoensis*, (14): 109-111.
- 森本 桂, 1993. 海辺の甲虫類概説. *昆虫と自然*, 28 (11): 2-6.
- 酒井 香・花谷達郎・小沼 篤, 1968. 利尻島の昆虫 (II) 鱗翅目を除くその他の昆虫類. 利尻島動植物調査の記録. 東京農業大学第一高等学校. 早稲田大学生物同好会, 1980. 利尻島の動植物調査報告. *早稲田生物*, (22): 56-68.
- 保田信紀・西谷栄治・佐藤雅彦, 1991. 利尻山における地表性甲虫類の垂直分布. *利尻研究*, (10): 13-28.
- 保田信紀・佐藤雅彦, 1992. 礼文岳における地表性甲虫類の垂直分布. *利尻研究*, (11): 11-25.